

東部・庄原の青年部 牛の行動(蹄)の重要性を学ぶ

東部管内青年部(部長 山本雅陳)と庄原メンバーズクラブ(会長 藤岡裕士)は「おかやま酪農業協同組合」で開催された「酪農文化セミナー」に事務局を含め二十名(東部八名、庄原九名、広酪三名)が参加し、併せて交流会も開催した。

セミナーでは「経済的な牛に優しい牛床管理とその技術の成功事例」と題して、アンナキヤトリン ボルベルグ博士から①牛舎内の牛の行動、②敷料の少ない牛床管理の最新技術、③コンクリート床とマット床のフロアの三つの柱に関して説明を受けた。

特に「牛の行動」から蹄の構造や負担状況等の解説のもとに、カウコンフォートによる改善方法の紹介がされた。欧州では家畜の二十五%が跛行を呈し、牛群の十二%が淘汰されている現状から、跛行疾患の対策を重要視しているとあった。

牛は二十四時間の内、一日、十三時間を横臥にあって居る事から「如何に快適に寝かせてやるかがポイントで、滑ったり、痛かったり、恐怖感を与える状況では快適とは言えない。蹄は柔らかいものの上を歩くのに適した構造になつており、言い換えると



圃場の状態を作つてやるのが健康な蹄を

構成させるポイントになる。コンクリート、マットの上でそれぞれ行動している牛の比較では、マットの方でよく動き、蹄の角質も締まり、毛繕いをして発情行動も分かり易くなるデータがあると説明された。

講義では日本初「牛の歩行時の蹄の接地面の動き」(後ろ、横、前)に触れ、スローモーション動画が公開されたが、外蹄から内蹄へと、かかとからつま先へと歩行する事がはっきり分かった。このことから外蹄への負担が大きいこと、病気になる九割が外蹄と理解でき、外蹄の方が約3mm内蹄より長い事も分かっていることから、適正な削蹄が求められる事も説明された。

牛床マット「PedikURA(ペディクラ)は表面上に鉱物が含まれており、摩擦することで蹄の形状が維持出来るとあった。

今回、青年部同士の交流会として参加を募ったが行程スケジュールから十分な交流時間とは言いがたかった。しかし講演参加を共にしたことは、今後の共通課題への解決に向けて有意義であったものと感じた。今後の活躍を期待したい。



良質なサイレージから コスト削減へ!!

西部楽酪会(会長 砂子拓也)は、カネコ種苗(株)くにさだ育種農場から清水一氏を招き、「自給飼料と良質サイレージ」と題した研修会を開催し会員ら十三名が参加した。砂子会長は「今回の研修を活かし、良い自給飼料を作りましょう」と呼びかけた。

清水氏は、「現在の酪農経営環境は、生産資材のコストアップにより悪い状態におかれ、購入飼料経費は約四割を占める状況にある。このうち購入乾草・配合飼料の給与量を共に減らすことは難しく、購入乾草を自給飼料に置き換えれば、それはコスト削減につながる。このため、如何に良質な自給飼料を生産するかが焦点となる」として、種子の品種紹介やサイレージ調整を行う際の方法等が説明された。

参加者は、コスト削減を如何に行えば良いかに興味を持ち聴講していた。



乳牛慰霊を機に

飼養管理徹底を誓う

三原市酪農振興会(会長 新舎和久)は会員ら二十名が出席して慰霊祭を行った。新舎会長は貢献乳牛への慰霊と感謝の言葉を読み上げ、続いて三原市長(代読)からは亡き乳牛達に酪農経済発展と市政発展への貢献、栄養豊かな牛乳・牛肉からの市民への健康寄与に対する御礼の言葉が述べられた。法要では地元住職による佛説阿弥陀経を全員で唱え供養を行った。

供養を終えて、新舎会長からは「全国的な乳量の伸び悩み、飼料高騰、

PPP交渉の難航等、二十六年度も厳しい状況が予想される中で自分達に出来ることを精一杯やっていきたい。また、年一回、慰霊祭が出来るとは喜ばしいことである。牛への感謝をきっかけに飼養管理への心がけを新たににより一層我々も向上して行きましょう」と関係機関・会員への協力に対する御礼と共に会員らに呼びかけた。

広酪から出席の岩竹重城組合長は、全国の酪農情勢を交え、新TMRセンター、乳価値上運動等への協力を呼びかけ、昼食を交えた関係機関等からの情報伝達と意見交換を行った。



愛する家族に感謝を込めて♡

広酪西部ミルク会(会長 砂子靖子)は、北広島町花き生産者の岡広勲さんを講師に招いて、恒例のフラワーアレンジメント教室を開催し、会員14名が参加した。砂子会長は「今年度最後の行事になりますがこの日を楽しみにしていました。今日は家族のため精一杯頑張ってお作りしましょう」と挨拶された。



(家族への思いを込めた作品を前に記念スナップ)

今年は、陶器の器の周囲にシサグラス(植物の繊維)をほぐして貼り付けることから始まった。

この作業には、少々手間取られたものの約1時間で綺麗な作品が完成した。講師の岡広さんからは、会員対象の抽選で決定した5名に対して腹巻きがプレゼントされ、岡広さんからは「寒い冬を乗り越えて頂きたい」とのメッセージの言葉が添えられた。

昼食を挟んで広酪西部事業所の寺道弘生所長から酪農情勢が報告され、会員相互の懇親を深めた。また、地域の拠り所である西部事業所会議室の清掃も行われ、個性豊かな作品を手にとり心躍らせて帰路につかれた。

『子ども神楽』でより一層和やかに

東部全員交流会に五十四名参加

東部活性化連絡協議会(会長 山本芳紀)は、第二十二回東部管内組合員交流会を開催し、総勢五十四名が参加した。

開会にあたって、山本芳紀会長は「今年も交流会がやってきました。本日は多数出席頂き元気な顔が見られて大変嬉しいです。今日一日を活力として今後もより一層酪農に励んで行きましょう」と挨拶し、



続いて、地元的神石地域酪農生産振興協議会の河上康則会長が「皆さん、ようこそお出で下さいました。酪農はやはり仲間が大切です。この管内にこれだけの仲間がいることをこの交流会で感じるものが出来て大変嬉しいですよ」と歓迎の言葉を述べた。

司会進行は地元協議会の藤井鉄男さんによって進められ、初出席の岩竹重城組合長(広酪)は酪農情勢を交えて広酪の近況を報告し「乳価交渉に向けては生乳生産者の皆さんのコストを抑えた実数調査から根拠をもって行動したい。これには生乳生産者全員が一緒になって乳価交渉に参加する考えの下で行わなければ成りません。また新TMR飼料は安価で良質な飼料製造と供給をもって組合員の皆さんに元気を出して貰いたい考えにある。そうして組合の元気にもつなげたい」として、乳価交渉に向けた協力とTMRセンターに懸ける思いを含め挨拶した。続いて、大ホールに移動し交流を深めた。



開宴に先立ち、今回で十回目の参加となる木原正勝社長(山陽乳業)が良質乳出荷への御礼を交えて乾杯発声し懇親に入った。

今回は地元協議会の粋な計らいで、子供神楽「サルダヒコの舞」、「八岐大蛇」、「大國主の尊」等を披露頂き、大蛇三匹を次々と素戔嗚尊が退治するシーンでは大人さながらの演技力で会場が大いに沸き立ち、中でも「大國主の尊」に扮した河上会長の小学校三年生の娘さん、一年生の女の子がテーブル席を回りながら福の神の紅白餅を配って回ると、その可愛さと一生懸命さに参加者一同、目尻を下げた。

閉会では、来年の担当地域となる三原・世羅地区を代表して玉川功士さんが「来年、また元気な顔で多くの方のおいでをお待ちしております」と呼びかけ、管内交流会が末永く続くことを祈り、全員の万歳三唱で会を閉じた。

北広島町を一本化した組織作りを

千代田町酪農協議会(会長 西原嘉一)は総会を開催し会員5名が出席した。西原会長は「厳しい酪農状況ではあるが互いに切磋琢磨し頑張ろう」と挨拶され、総会に上程した「平成25年度事業及び決算報告」、「平成26年度事業計画案」の各議案を承認した。総会終了後、広酪の鈴木道弘専務からは酪農情勢を報告し、この中で新TMRセンター稼働に向けては、「会員から経営移譲を機に新TMRの利用を検討している」、「老朽化した畜舎の改築と併せて新TMR使用を考えている」との意見があった。

懇親会では会員の他、北広島町の副町長をはじめ削蹄師や家畜商ら20名が加わり意見交換を行った。当協議会では「会員数の減少から北広島町で一本化した任意団体設立を目指したい」とする意見があり各団体と協議を進めることとした。

